

阿蘇

五感に響く

小国杉

ASO OGUNISUGI



小国の林業、それは江戸時代にさかのぼります。

名湯として全国に知られる奥阿蘇・黒

川温泉より車で約10分。町面積の75%、約1万ヘクタールは林野面積、そのうち約7600ヘクタールが人工林という小国町は、言わずと知れた林業の町です。

その起ころいは、1758年(宝暦4年)、藩命により毎戸25本の杉穂の挿しづけが行われたことにさかのぼります。発展と一時は荒廃までをも経験した先人たちの知恵と努力が、今日の小国林業を築き上げたのです。

長い歳月を要する森林づくり

立派な森林をつくるには、まずその気候・風土に合った木の樹種を選ばなければなりません。小国の場合、粘りが強く折れにくいヤブクグリとアヤスキの2種類、それらを半々ずつ、規則正しく植林します。だから山全体に均一性が生まれるのです。

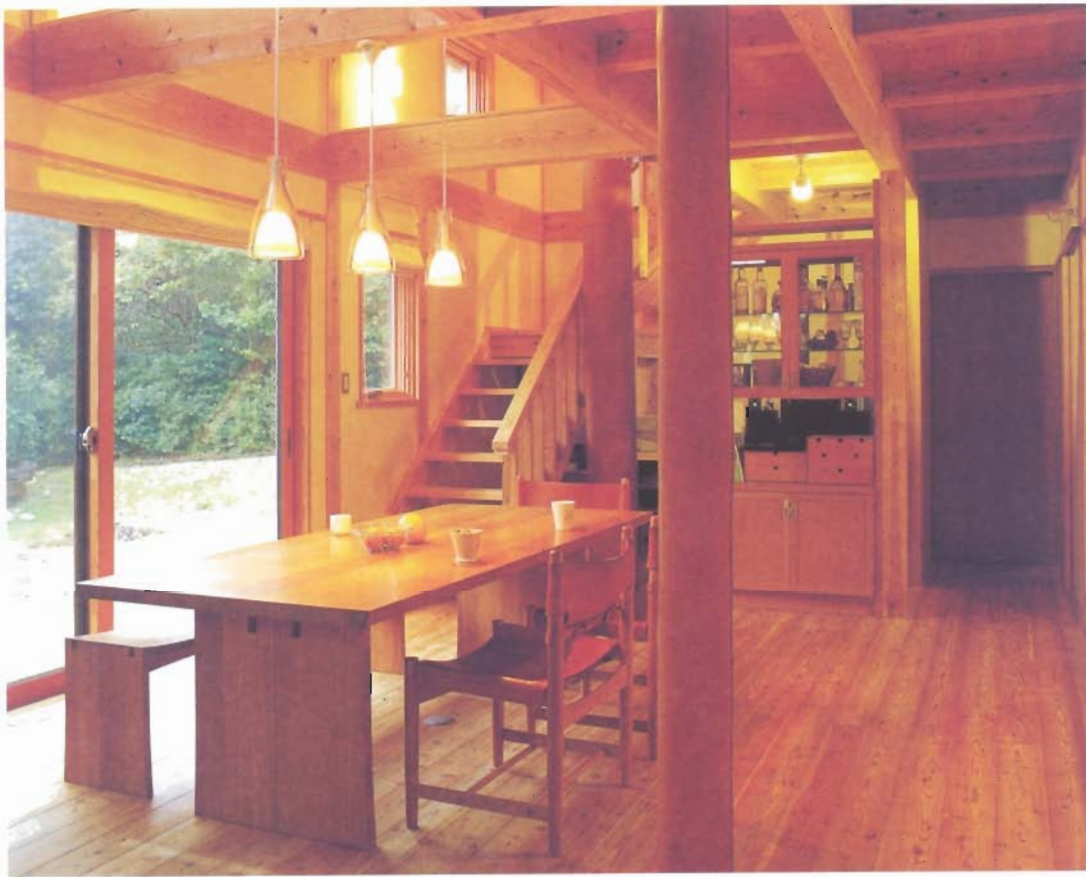
1〜2年かけて育てた苗木は一本一本くわで植え、10年間は毎年毎年下草を刈り、その後は林の中の木が込み合つて成長が衰えないように間引き刈りを行います。

こうして手塩にかけて育てあげた杉は60年以上のものを木材として利用中には80年、1000年を超えるものもあるとか。

長い歳月を要する苦勞を思う時、植林者の手のしわと、杉の年輪が重なって見える思いがします。



人や陽ざしに触れ、アメ色に輝く。



人の心を落ち着かせる色

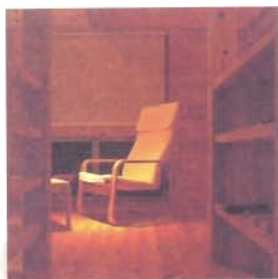
年数を経てきれいなアメ色に変わっていく木の色調。それぞれの木材は生まれながらに微妙な色合いを持っていますが、陽ざしを浴びたり、人が触れ一緒に暮らしていく中で、不思議と全体に色が馴染んできます。

また木目の美しさは自然と人の心を落ち着かせる効果があるとか。我が家の慣れ親しんだ木目と色合いは、忘れられない思い出となるでしょう。

陽ざしを優しく反射

木材の表面には顕微鏡で見ると細やかな凹凸があります。そこに光が当たると、凹凸によって反射する光は、適度に散乱して微妙な光沢となり、目に刺激を与えません。

また木材は目の疲れの原因になる紫外線を程良く吸収し、温かみのある赤外線は多く反射します。このことも人が木の家に安らぎや落ち着きを感じる理由の一つかもしれません。



匂い立つ杉の香り、木は呼吸しています。



居ながらにして森林浴

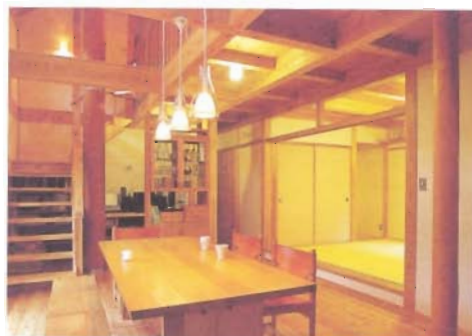
熊本県と大分県の県境にある小国・杖立温泉郷。新緑の頃になると、3500匹もの鯉のほりが杖立川の上を泳ぎ始めます。さらに阿蘇へと続く、緩やかな坂道の両脇に迫る杉林。一歩踏み入れると、樹木が放つ独特の香りがほのかに漂います。

木が発する香りには「フィトンチッド」という芳香性の物質が含まれており、ストレスを和らげ、心身を鎮静し、疲労感を回復、私たちをリフレッシュさせてくれます。

また気管支喘息やアトピーの原因の一つといわれるダニの行動を抑制したり、殺菌作用、カビ防止の効果もあります。

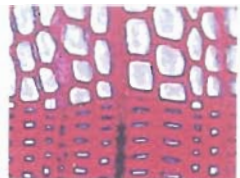


五感に響く



優れた調湿機能

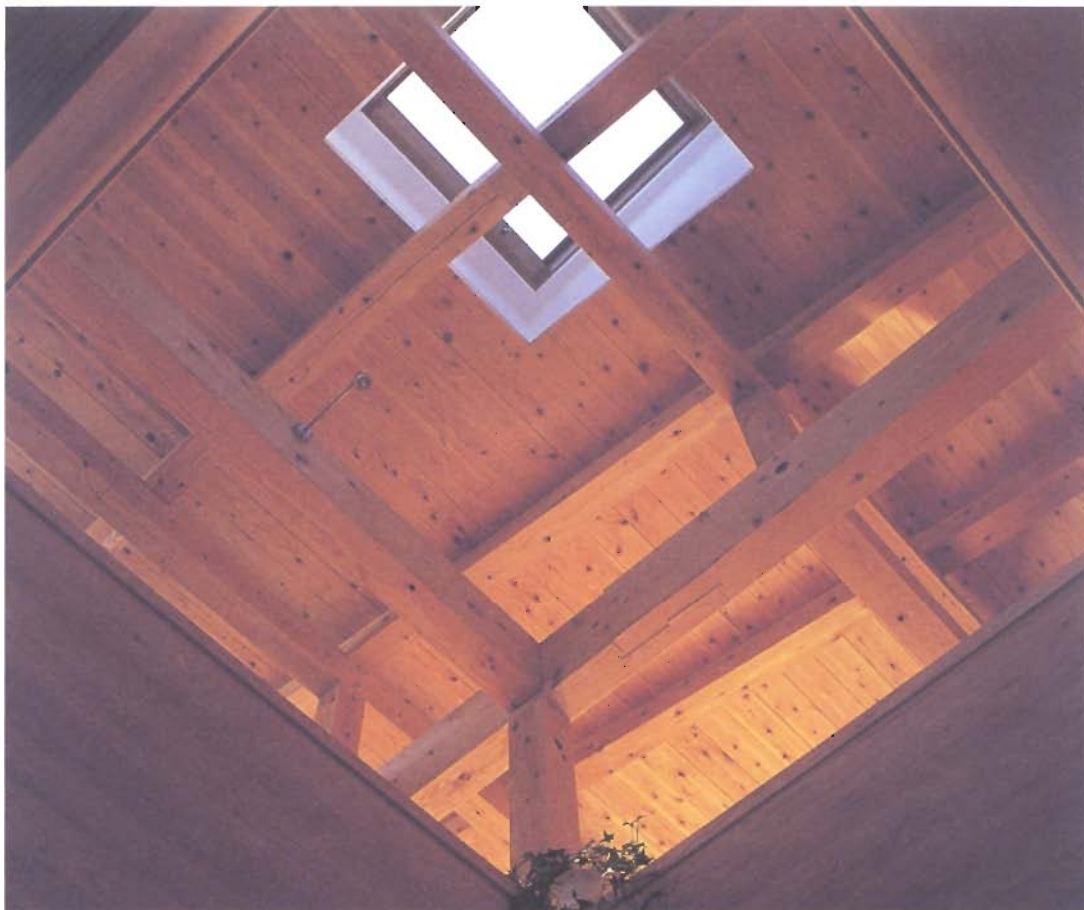
木材になっても木は生き続け、呼吸をしています。周囲の湿度が高いときには湿気を吸収し、乾燥しているとき水分を放出して、湿度を一定に調整するので、衣類や調度品の保存に最適な素材です。木をふんだんに使った家では、この調湿機能により結露が起きにくいのです。



杉(木口)の細胞

木材には、周囲の環境に合わせて水を吸ったり、吐いたりする湿度調整機能があります。小国杉は、九州国立博物館(2005年度福岡に開館予定)の収蔵庫材にも使用されます。

聞こえぬ音に耳を澄ます。



木の音楽ホール

世界的な細菌学者・北里柴三郎の業績を讃えて造られた「木魂館」。全てが小国杉や檜で作られ、その敷地内にある「ASO音楽ホール」にも小国杉がふんだんに使われています。

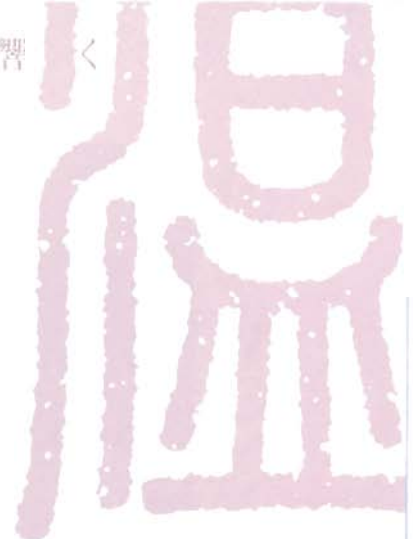
木が楽器やコンサートホールに使われるのは、木の適度な吸音力が、耳に快適な音環境を与えてくれるからです。特に高い音は吸音されてソフトになるので心地よい残響音となります。また木の家は、歩いたり、モノを落としたときの音も耳に優しいのです。



木魂館を一望できるすぐ目の前の丘の上に、福岡の音楽家、麻生純さんが、小国杉を使った、室内音に最適なASO音楽ホールを建てました。

脳のアルファ波を増加

人の耳に直接聞こえない「超高周波音」。脳波のアルファ波を発生させ、リラックスさせる効果があると言われています。鉄筋コンクリート造などの住まいは、この音を遮断してしまいますが、木造住宅はこの音を通すのでリラックス効果が期待できます。あなたも聞こえぬ音にそっと耳を傾けてみませんか。

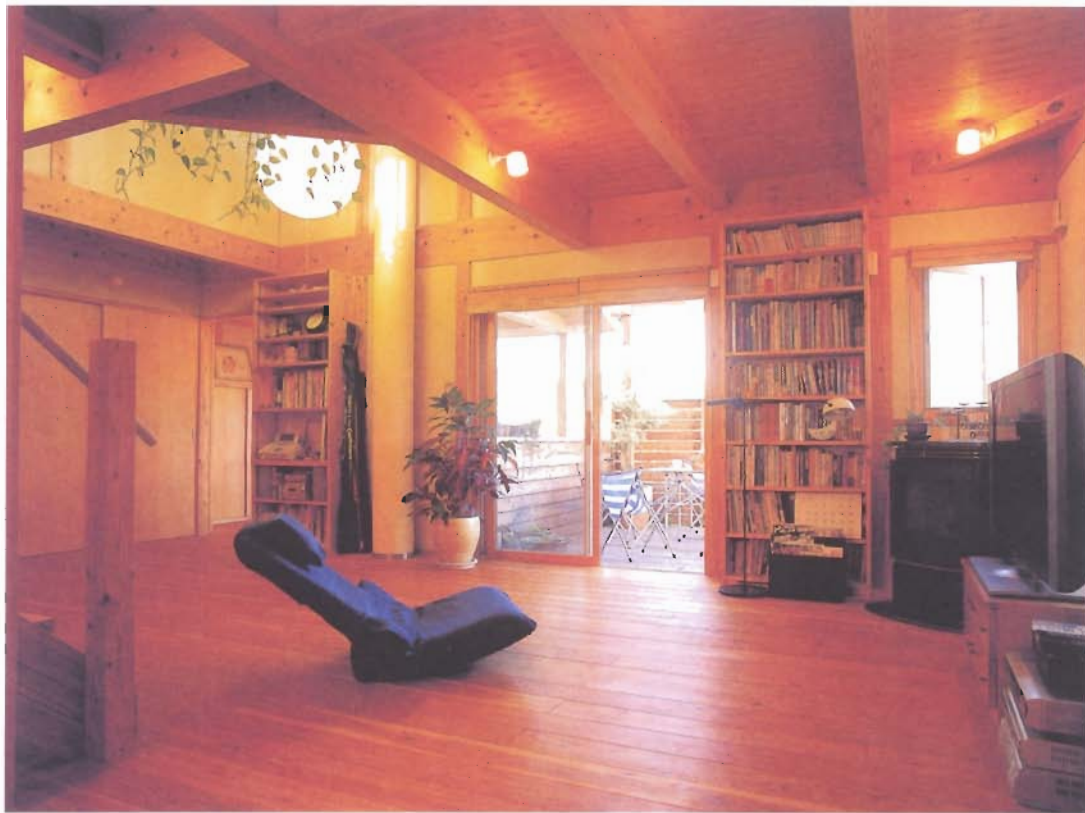


足を踏み入れると、そこに木のぬくもり。



木造校舎の思い出

板張りの床、木の机。木肌の温もりは小学校時代の思い出を蘇らせます。近年、また木造校舎の学校が増えているそうです。あたたかい、転んでも衝撃を吸収するので痛くないなど、子どもたちにも人気とか。また木のある環境では、子どもの疲労感やイライラすることが少ないなど情緒面にもよい効果があるという調査結果もあるそうです。木は、子どもたちの健やかな感性を育むのかもしれない。



木の床は衝撃を適度に受け止めるだけでなく、床の冷えからくる疲れを防ぎます。

冬あたたかく夏は涼しく
素足になって木肌に触れてみてください。きつと温かく感じることでしよう。それは触れた瞬間に熱を奪われないから。木材には熱を伝えにくい性質があるのです。そのため、木造住宅は断熱性と保温性に優れ、冬あたたかく夏は涼しい住まいになります。
また木は、歩くときの衝撃をやわらげ、歩きやすい適度な硬さなので、床材としての機能も最適なのです。



中心の多目的ホールに教室が集まり、寄り合いの形をなす。小国杉で造られた西里小学校

年を経るごとに味わいを増す、木の家。



木と人との 気持ちいい関係

森林浴という言葉もあるように、山に入るとふっと疲れがとれる、癒される、という方が多いと思います。匂い立つ樹液の香り、やわらかな光沢、強さを感ずるの、木という自然が生んだ素材の生み出すぬくもりが、心まで健康にしてくれるからなのです。

木の家と歩む

小国町は全国でも有数の杉の産地というだけではなく、豊かな自然は創作意欲をかきたてるのでしょうか、この地を気に入って移住してくる建築家や画家が多いといえます。そんな小国町の森の匠が愛情を込めて育てあげた杉は、形を変えて家となっても生きつづけます。色、香、音、温、そして年を経ることに増す味わい。わたしたちの五感に響く木の家に、あなたも住んでみませんか？



感
に
響
く

味

KJ WORKS のつくる
『小国杉の家』



小国ウッディ協同組合

〒869-2506 熊本県阿蘇郡小国町上田838
TEL 0967-46-5360 FAX 0967-46-5590

&

株式会社 ケイ・ジェイ・ワークス

U R L <http://www.kjworks.co.jp>
e-mail info@kjworks.co.jp

□本 社
〒562-0028 大阪府箕面市彩都粟生南1丁目16-29
TEL 072-728-5597 FAX 072-728-7281
□京都支社
〒610-1121 京都市西京区大原野上里北ノ町1228-7
TEL 075-335-5077 FAX 075-335-5088